

もの言う牧師のエッセー 第42話

⑤「ブレードランナー」

オリンピック小話

彼の名はオスカー・ピストリウス。カーボン繊維製の義足で走り、「ブレードランナー」の異名を持つ、男子陸上400mのスプリンターは、義足ランナーとして五輪史上初めて出場、準決勝まで進んだ。そしてその後、男子1600mリレー決勝にも出場、見事アンカーを務めたのだった。

「この気持ちは言い表わせない。五輪を目指して、全てをささげ、ついにここまでたどり着いた。競技人生の頂点だ。泣き出したい気持ちになった。」と彼は興奮を隠さなかった。

先天性の身体障害により腓骨が無い状態で誕生した彼は、生後11ヶ月の時両足の膝から下を切断。その後、高校ではラグビーやレスリングに明け暮れるスポーツ少年へと成長、後に陸上競技へと転向すると、その年、2004年に出場したアテネ・パラリンピックでいきなり100mで銅メダル、200mで金メダルに輝く。

現在では両足切断者クラスの100m、200m、400mの世界記録保持者となった彼だが、2007年からは健常者との国際大会にも参加し始め、健常者と真っ向勝負する五輪への出場を悲願として走ってきたのだ。彼のモットーは、「自分のもつ障害によって出来ないのではなく、自分のもつ能力によって出来る。」である。これは、聖書の言葉

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでも出来るのです。」

ピリピ人への手紙 4章 13節

を連想させる。他の動物と違い、神が人間を神に似せて創造された結果、我々人間は素晴らしい力を持つ。が、その道は時として困難がともなう厳しいものだ。しかし我々が神と共に歩む時、神はそれらの試練や逆境に“真っ向勝負”する力をくださり、乗り越えさせてくださるのだ。キリストを信じ、“出来る力”をいただこう。

